

一般質問



瀬戸 三代 議員
(無会派)



■能登震災被災者の医療費窓口負担の免除の期限延長について

弱者の為に、立ち直る時間を！

質 先行きが不透明で、かつ仕事もない、金もない、終の棲家も決まっていない中、病院代だけは無料という事で心が和らぐ面があった。国は3か月延長と発表しているが、6月末日が期限である七尾市は、9月末日まで延長するのか伺う。

答 国民健康保険の被保険者のうち、住宅が半壊以上の罹災判定を受けた方々に、医療費の窓口負担分免除を実施しており、期間は6月末日までとしている。7月以降については、県内の各市町は、財政状況などにより延長しないことで足並みが揃っている。後期高齢者医療保険についても同様である。

理由として、国保会計の状況で、団塊の世代が後期高齢者になることで被保険者数が大幅に減り、保険税収が減少する中、医療費は増大傾向である。他にも同じ国保加入者や後期高齢者の場合で、在住の市町によって窓口負担の有無があることは望ましくないことも挙げられる。

実際、県内19市町のうち、13市町で令和7年度から保険税の引上げを実施し、医療費の増加に伴う財源の確保にかじを切っている状況である。当市の国保会計においては、医療費が増大している中で保険税の据置きを行っており、収支はさらに厳しさを増している。

よって、国民健康保険制度そのものの状況や周辺自治体等の状況を踏まえると、被災者を対象とした国民健康保険の医療費の一部負担の免除は6月までとし、延長しないこととしたので、理解いただきたい。

一般質問



高橋 正浩 議員
(無会派)



和倉温泉

■能登創造的復興支援交付金の活用について

交付金と復興基金を組み合わせ、効果的な活用を！

質 七尾市の復興における最重要課題の一つが和倉温泉の機能回復であり、和倉温泉の事業関係者の方々や商工会議所、そして七尾市役所が総力を挙げてこれに挑まなければいけない。和倉温泉の復興支援としてこの交付金をどのように活用してきたか、あるいは今後どのように活用していくのか伺う。

答 能登創造的復興支援交付金は、石川県に500億円が交付され、そのうち七尾市には26億8,000万円余りが配分されることとなっている。交付金の活用として、今回の6月補正予算では、準半壊・一部損壊の住まいの修繕支援や、被災宅地等の復旧支援事業の上乗せ分に係る経費などを計上している。

また、同交付金を活用した和倉温泉への支援については、和倉温泉創造的復興まちづくり推進協議会の関係者から聞き取りを実施し、和倉温泉創造的復興プランの具現化に向けた事業計画を県を通じて国に提示し、交付金の活用ができるかどうかの確認を求めているところである。今後、交付金の活用が可能であれば、随時予算化していきたいと考えている。

交付金の使い道に関しては、今、各自治体でどのようなものを使うかというような要望等を県で集約しながら、精査していただいているところである。これからフェーズが変わることに必要なものというのは変わってくると思っており、段階ごとに必要なことを要望していきたいというふうに考えている。